

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

国 [台湾]
 学校名 [日新国小学校] 担当教諭名 [王慧玲] (5年 3組 24名)
 日本学校名 [多摩市立南鶴牧小学校] 担当教諭名 [虻川 学] (5年 組 72名)

■実施教科・時間数について教えてください。

| | 教 科 | 単 元 名 | 時間数 |
|-------------------------|-------|----------------|------|
| アートマイルに関連した 実施教科・時間数 | 英語 | フォーラムの発表の下書き作業 | 12時間 |
| | 芸術と人文 | アートマイル・日本文化の紹介 | 24時間 |
| | | | |

■作品について教えてください。

| 題 (テーマ) | 文化の象徴 |
|------------|--|
| 絵に込めたメッセージ | 両国における対照する文化を絵で表現しました。 例えば、日本は富士山と言ったら、台湾は玉山です。 日本は寿司と言ったら、台湾は小籠包です。 |



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

| 成 果 | 課 題 |
|---|--|
| 今回テレビ会議は一回のみでした。テレビ会議の内容は、非常に充実で豊富でした。一度じゃなくて、二回ぐらい分けて、もう少しゆとりを持って、進んだら、その感覚が継続していくでしょう。また、人数上の差異で、一対多数なので、学生は相手校の学生に対してあまり印象が残らないようです。 | 1. 相手校と1回のみテレビ会議を行いました。 2. この活動を通して、日本という国を少しでも分かってもらえるように期待しました。 3. これから、どうすれば、両国の学生がより知り合えるのは先生にとって大きな課題である。 |

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

| 児童生徒の意識の変化 | 教師の意識の変化 |
|---|--|
| 日本は台湾の人にとって、昔から親しい国なので、ですから、交流前と後日本の東京についての意識はそんなに変わっていません。 しかし、日本人の友達を非常に作りたがっていました。手紙なども交換できたら、より深く日本を知ることが出来ると思います。 | 今までは交流相手はずっと金沢の方面でした。今年では東京でした。 交流前と後一番感じたのは、日本と言っても、地方によって、やっぱり違うと感じました。 違うものを勉強することが出来ました。 |

■主な活動の流れを教えてください。

| 場面 | 時期 | 活動内容 | 児童生徒の反応 | 実施教科等 |
|---------|--------|---|--|---------------|
| 自己紹介 | 九月 | 1. 生徒に交流の流れを説明し、作業を配分する。 2. チーム分け | 生徒は、まだ受ける立場なので反応があまり積極ではないようです。生徒に対して、英語で交流するのには、書きや話すのも不安だった。 | 英語 芸術と人文 |
| テーマ学習 | 十月 | 1・インターネットで食文化や有名な建物、特産物、及び日新小について調べた。 2. 英語で自己紹介のカードの制作。 | 1.生徒は資料の整理に苦手だった。 2. カードの制作に入ってから、活動に対する意識をし始めた。 | 英語 芸術と人文 |
| 構図決定 | 十一月 | 1.インターネットで食文化や有名な建物、特産物、及び日新小について調べ、PPTを制作。 2. 相手校の先生とのTV会議(11/13) | 生徒はPPTの制作方法があまりわかりませんから、ユニークなPPTができませんでした。 | パソコン 芸術と人文 |
| 壁画制作 | 十二月～一月 | 1. 相手校とのTV会議(12/15) 2. 絵の製作。 | 1・絵の作業については、クラスの7名の希望者が、昼休みや冬休みに来てくれて、色塗りをしていた。 | 芸術と人文 |
| 鑑賞・振り返り | 二月 | 共同制作した絵の鑑賞 | 1.授業中に絵について、説明しました。「なるほど」との反応でした。 2.絵画担当の学生は非常に達成感を感じました。 | |

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

| 学習目標・つけたい力 | 目標 | 成果 | 成果についてそう感じた場面・理由 |
|----------------------|----|----|--|
| 自文化の理解 | A | 5 | 資料の整理を通して、日新の学生は自分の国の文化について、更に理解できた。 |
| 異文化の理解 | A | 4 | テレビ会議を通して、両国の文化について、更に理解できた。 |
| コミュニケーション力(説明・共感・英語) | C | 3 | 英語で言いたいことを表現するのは難しかった。 |
| 情報活用能力(情報収集・発信) | B | 4 | 今回はインターネットで情報を集めた。なかなかよくできました。 |
| 人間関係をつくる(学級内・交流相手) | A | 3 | 活動を通じて、団結力を高めることを目指していますが、その効果がよくなかった。恐らく理由は主導者は非担任だったから。学生と接触できる時間が限られていて、予想の効果に達せなかった。 |
| 協働する力(役割分担・協力) | B | 3 | 積極的な学生は主導で、消極的な学生が協力との感じだった。 |
| 学習を追究する意欲 | B | 3 | 成り行きで積極的な学生は主導となって、消極的な学生はそのままついて来ていた。 |
| 表現力(伝えたいことを絵で表す) | A | 5 | 絵の担当役達は、経験があまりなかったが、制作にとっても専念だった。 |
| 作品を鑑賞する力 | A | 3 | 非常に持っていました。 |